

J P S
北九州

報 会
 日 本 郵 趣 協 会
 北 九 州 支 部
 平 成 30 年 9 月 15 日
 第 342 号

新 昭 和
 第 一 次
 1 円 30 銭 初 雁
 1946.9.15 発 行

日本国幣I版(Pos.95「1.30」E'対'白抜付)



灰白紙



狭透し

II版(Pos.95「1.30」E'対'黒点)

1.30



白紙



灰白紙

印刷局紙



灰白紙

狭透し

提 供 : 橋 本 たねひろ 氏

第一次新昭和切手 1円30銭の収集

橋本たねひろ

この切手は一種便書留、速達用として昭和 21 年 9 月 15 日発行され昭和 22 年 4 月 1 日料金改正により用済みとなったもので、さくらカタログでは昭和透かしと狭透かしの 2 種に分類されているが、昭和透かしには白紙と灰白紙があるので、単片収集では 3 種となる。

エンタニアは使用目的通り一種便書留と速達が揃えば十分であり、外国郵便などは半端な額面のためかなり難しくなる。

使用済にしても、後期の料金別納で消費されたブロック以外は苦勞するはずである。

表紙のとおり、銘版に日本国銘と印刷局銘の 2 種があり、日本国銘には、銘版上の 95 番切手額面のピリオドが白抜けか黒くつぶれているかで、I 版と II 版に分類されているが、白紙、灰白紙昭和透かし、灰白紙狭透かし共収集に苦勞はしない。

印刷局銘は灰白紙、狭透かしの 2 種であるが、こちらはいずれも少なく、表紙を見ても狭透かしはまだ未入手であるので将来の課題である。

刷色に多少の変化があるが当初は考える必要がない。

それよりは、むしろ定常変種が面白いので、こちらの入手に努力したい。